

〈自分たちでつくるみんなの学校 ~みんなが笑顔になる学校を目指して~〉



# 成美っ子

学校だより 令和6年度No.12

## 「小学校生活での一番の思い出を、教えてください」

校長 原野 恵子

暦の上では、啓蟄を迎えました。校舎内には、卒業ソングが心地よく響きわたります。本校では、3月17日に、卒業生47名が巣立ちの時を迎えます。入学から6年間、約1200日の学校生活の中には、4年間のコロナ禍がありました。頬を寄せ合い、語り合い、触れ合うという、当たり前のことが憚られたあの日々です。子供たちの中には、今、どんな思い出が蘇っているのでしょうか。コロナ禍を乗り越えた、この子供たちであるからこそ分かる、多くの仲間との楽しい思い出であって欲しいと願います。



「卒業を祝う会」での6年生の合唱

私事で恐縮ですが、38年間の教職経験の中で、8回、担任として、卒業生を送り出す機会を与えていただきました。私は、どの代の6年生にも、卒業を目前にした3月に、必ず問いかける質問があります。それが、タイトルの「小学校での一番の思い出を、教えてください」です。

「一人も休まず、諦めることなく、全員で助け合って達成した雄山登頂。最高の青空だった」「ベスト記録を目指して頑張った、連合運動会、陸上記録会。千人以上の6年生が集まり、胸が高鳴った」「心合わせて歌った三部合唱。心が震えたし、家族が涙を流しながら聴いてくれた」等、多くの子供たちは、特別なイベントについて、満面の笑みで語ってくれました。なるほど、と頷きました。

しかし、5回目以降の子供たちの多くが、全く違う視点から語り始め、驚いたことを思い出します。それは、「授業中に、自分とは違う友達の様々な考えを知ることができた。たくさんの考えがあると分かった」「自分とは違う立場が多くあると分かり、語り合うのが学校だと分かった」「毎日、自分の考えが広がるのが分かった。学校に来て友達と学ぶのが楽しかった」等、という言葉です。もちろん、全員ではありませんが、多くの子供が語り、驚きと共に、胸が熱くなったことを覚えています。確かに、私も、子供たちの前に立ち、授業をするのが楽しくて仕方ないということを感じ始めた時期でした。日々、自分なりにでき得る準備をして授業に臨んだはずなのですが、その予想をはるかに超える考えや思いを表出する子供たちに、「どうしてそう考えたの、教えてくれる?」「みんな知りたいよね」と、子供たちの奥にある考えについて、導き出し、考えを深め合う日々を送ることができました。3学期には、時間が経つのが惜しく、卒業して欲しくないという思いが溢れる、幸せな日々を送らせてもらいました。大袈裟かもしれませんが、その日々は、命と命が響き合うような時間でした。担任として子供たちを任せていただける、教師という仕事の楽しさや素晴らしさについて教えてくれた子供たちに、今、改めて感謝を伝えたいと思います。

さて、今年度、6学年を始めとして、全クラスを毎日訪ね、授業の様子を参観することが、大変楽しみでした。失敗を恐れず、明るく学び合う成美っ子の姿を、見守ることができたからです。

子供たちは、無限の可能性に満ちています。考えや思いを語り合う仲間や、しなやかで前向きな心を大切に、共に学べる日々感謝しながら、自分らしく進んでくれるようにと祈ります。

結びになりますが、保護者、地域の皆様には、今年度も、本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。深く感謝申し上げますと共に、今後も引き続き、ご支援いただきますようお願い申し上げます。年度末のご挨拶とさせていただきます。